

【認定】

特定非営利活動法人 SEEDS Asia

2023 年度事業報告書

防災で未来をつくる



目次

ご挨拶	2
2023 年度事業計画の達成状況	3
要約	
① 防災/環境教育・啓発	4
② ツールの開発	5
③ 防災研究・調査促進	6
④ より安全な建設の推進	7
⑤ 防災指導員育成	8
⑥ 防災管理体制強化促進	9
⑦ 緊急支援・避難者支援	10
⑧ コミュニティ防災促進	11
成果物	12
講師派遣実績	12
組織強化	18
SEEDS Asia 2030 プランの改訂版施行	18
広報タスクフォース	19
国別・事業別報告	21
1) フィリピン 中部ビサヤ地方における学校防災強化・推進事業	21
2) 日本 With コロナ時代の復興まちづくり協力事業 Phase-II	23
3) 日本 鳥羽市立鳥羽小学校研修への協力	25
4) 本部（複数国） マイ・ホームタウン アジア子ども会合	27

ご挨拶

SEEDS Asia の活動にご支援・ご協力いただいている皆様に心より感謝を申し上げます。

2023 年度は、5 月に WHO が新型コロナウイルスに係る「国際的な公衆衛生上の緊急事態」を解除し、世界中で人の移動が再開しました。こうした中、日本では 2024 年元日に能登半島地震が発生し、今もなお基礎インフラの復旧の困難性や余震などの再被災リスクへの懸念が、被災された方々の避難生活を長期化させています。また、世界を見れば気候変動の影響が顕在化すると同時に、緊張・暴力・弾圧・武力衝突などがあらゆる場所で発生し、長期化・深刻化している状況です。自然現象であれ、人為的な理由であれ、命を守るために居住地を追われた世界の国内避難民数は、2023 年に 7,590 万人（2020 年比 1.38 倍増）、国外避難民を含めると日本の総人口に匹敵する数へと増加しています¹。

日本では、少子高齢化による圧倒的な人的・資金的不足が顕著となっています。災害への対応を事例として、国や政府の保護や保障、弱者への庇護さえもますます困難な時代を迎えている現実が目の前にあります。「サステナブルディベロップメント」や「ウェルビーイング」と言った言葉が虚しいものにならないために、私たち市民は、今こそ「ハチドリの一滴」を一人一人が運ぶことしかできることはありません。それは、知る、わかる、伝える、実践する、組織化するなど、それぞれの立場で異なりますが、共通しているのは「見て見ない振りをしない」ことではないかと思います。

複雑化する地政学リスクと気候変動リスクの中で、持続可能な未来の構築に向けた皆様からの「投資」を社会全体に還元できるよう、私たちは関心を喚起し、活動に取り組んで参ります。あらためて、皆様のご支援・ご協力に心から感謝申し上げますと共に、引き続き「防災で未来をつくる」活動を支えてくださいますよう、心よりお願いを申し上げます。

SEEDS Asia 事務局長
大津山 光子

¹ Internal Displacement Monitoring Centre (IDMC) Global Report on Internal Displacement: GRID（世界の国内避難民に関する報告）（2024）<https://www.internal-displacement.org/news/conflicts-drive-new-record-of-759-million-people-living-in-internal-displacement/>

2023 年度事業計画の達成状況

要約

2016 年の創立 10 周年に際し策定された「SEEDS Asia 2030 年プラン」では、持続可能な開発目標（SDGs）に高い相関性を持つ仙台防災枠組の 4 つの優先行動に基づき、日本を含めたアジアにおける経験や知見を活かし発展させる 8 つの重点活動を推進することを明確化しました。2023 年度には、紛争や気候変動を原因とした世界各地の物価高騰や円安など、世界情勢の外部環境の変化に応じ、8 つの重点活動の数値目標を見直し、事業計画を立案し実施して参りました。2023 年度の活動について以下のとおり報告いたします。

①防災/環境教育・啓発活動

目標 4,500 人に対し計 2,218 人の実績となり、目標を半ば達成となりました（49%）。

②ツールの開発

日本をベースに、フィリピンの台風ヨランダ（ハイエン）10 年記念講演を開催し、「My Hometown アジア子ども会合」の継続的实施に向けて調整を開始しました。これらのイベントはシリーズ化し、今後ツールとして発展していく基礎となるものです（ツールの開発を達成）。

③防災研究・調査促進

日本を含めたアジア共通の課題に関連する研究論文等を発表する、また論文・出版物の執筆に協力することを目標としていました。今年度は発表には至りませんでしたが、出版物のチャプター執筆を進めました（50%）。

④より安全な建設の推進

より安全且つ気候変動対応と環境に配慮した避難所の検討を目指しており、フィリピンでの避難所の検討に向け調査等を進めましたが、案件化には至りませんでした。未達成（情報収集を含む検討はしたため 10%）となりました。

⑤防災指導員育成

各地の状況に応じた防災の担い手育成 20 名を目指しており、フィリピンと日本で 19.5 名（97.5%）の育成を達成しました。さらに、高校生の担い手育成に向けた交流を推進しました。

⑥防災管理体制強化促進

学校防災計画あるいは地区防災計画策定に 2 件協力することを目標としていましたが、今年度は計画策定の事例がありませんでした（0%）。フィリピンにおいて、学校防災計画策定を含むトレーニング内容の開発に取り組みました。

⑦緊急支援・避難者支援

現・元事業地で緊急支援を実施できるネットワークと金銭的リソースの確立を目指しており、寄付の呼びかけを継続しました（寄付金額目標 100 万円に対し達成率 43.2%）。

⑧コミュニティ防災促進

未災地での活動 1 件を目指しており、鳥羽市立鳥羽小学校の教員研修への協力により 1 件達成しました（100%）。

以上のとおり、約半数の重点活動において目標を達成し、多くの講演・講師派遣に携わり成果物も作成されました。

① 防災/環境教育・啓発

2030 プラン	2030 年までに、SEEDS Asia はアジアにおいて、開発したツールを活用して、5 万人への防災教育機会を提供します。	
2023 年度	目標	実績
全体	4,500 人への防災教育や啓発の機会を提供する (日本 4,000 人、フィリピン 500 人、バングラデシュ 5 人、インド 5 人、ミャンマー 5 人)	2,218 人への防災教育・啓発機会を提供 (日本 1,590 人、フィリピン 611 人、バングラデシュ 7 人、インド 8 人、ミャンマー 2 人)
ミャンマー	● 5 人への防災教育・啓発	● 2 人がマイ・ホームタウンに参加 (タイ国境から)
フィリピン	● 500 人への防災教育・啓発	● 教育省の防災管理コーディネーター (地方・地区レベル) へのセミナー提供 (330 人) ● 教育省ステークホルダーへの教育・啓発 (252 人) ● マイ・ホームタウンの実施 (29 人)
バングラデシュ	● 5 人への防災教育・啓発	● マイ・ホームタウンの実施 (5 人)
日本	● 4,000 人への防災教育・啓発	● 大学やシンポジウム、団体イベントでの講義・講演活動 (1,590 人) ● マイ・ホームタウンの実施 (130 人)
インド	● 5 人への防災教育・啓発	● マイ・ホームタウンの実施 (8 人)

2023 年度の①**防災/環境教育・啓発**では、目標 4,500 人に対し計 2,218 人の実績 (49.2%) となり、目標を半ば達成しました。日本の大学でのオンライン講座の一部は受講者数が見えないことが数値化できなかった要因の一部です。今年度は、日本、ミャンマー (国外避難中)、バングラデシュ、インド、フィリピンからオンラインイベント「マイ・ホームタウン アジア子ども会合」への参加がありました。フィリピンでは、現地教育省や市民防衛局にお招きいただき、これまでの事業の成果や防災の基礎知識に関する講師を務める機会がありました。2030 プランに基づく「マイ・ホームタウン アジア子ども会合」を含む教育・啓発の目標人数は 5 万人であり、2023 年度実績の同プランに対する達成率は 4%です。2022 年度までの実績は 48%だったため、累計は達成率が 52%となりました。

② ツールの開発

2030 プラン	2030 年度末までに、気候変動への対応を含めた防災啓発のためのツールを作成し、持続的な運営につながる仕組みを構築します。	
2023 年度	目標	実績
全体	ウェブサイトにおいて持続的に活用・改善できる防災/環境（気候変動への適応を含む）啓発ツールを公表する	フィリピン・台風ヨランダ（ハイエン）10 周年記念オンライン講演「フィリピン学校防災トーク」を日本語開催、多地域間での「My Hometown アジア子ども会合」を継続実施に向けたツール化
ミャンマー	●全事業地において、SEEDS Asia の取り組みや理事・専門家による防災講座を提供（オンライン・有償・英語・シリーズ化）	●該当なし
フィリピン		●「フィリピン学校防災トーク」実施
バングラデシュ		●該当なし
日本		●My Hometown の継続実施と、ツール化に向けた調整 ●姫路商業高校とイナバング北中央高校との生徒交流事業実施
インド		●該当なし

2023 年度の②ツールの開発では、SEEDS Asia のウェブサイト上で持続的に活用・改善できる防災/環境啓発ツールを公表することを目指していました。ウェブサイト上でのツール発表という形ではありませんでしたが、フィリピンにて台風ヨランダ後の 10 年そして SEEDS Asia のフィリピン事業を振り返るオンライン講座シリーズ「フィリピン学校防災トーク」を開催しました。さらに、SEEDS Asia 設立 15 周年を記念して 2021 年に始まった「My Hometown アジア子ども会合」を継続的に実施・発展させるべく、事業パートナーや学校との協議を進めてきました。また、兵庫県立姫路商業高校とフィリピン事業地のモデル校イナバング北中央高校との交流を開始し、今後の持続的な防災若手人材育成ツール開発・定着に向けた第一歩となりました。5 つの事業地の全てをカバーするツールが開発されたため、2023 年度目標の達成率は 100%です。2030 年プランの達成に向けて、各事業地のツールを持続的に活用・改善するシステムの構築と有償化が求められます。

③ 防災研究・調査促進

2030 プラン	2030 年までに SEEDS Asia は 各事業の効果的な実施に関わる研究・学術界及び科学研究機関との連携を進め、研究論文・出版物を 5 本は発表／論文・出版物の執筆に協力します。	
2023 年度	目標	実績
全体	<u>事業の効果や教訓、アジアの共通課題について研究論文・出版物を発表する/論文・出版物の執筆に協力する</u>	<u>●フィリピンの取り組みに関してチャプターを執筆</u>
ミャンマー	●事業の効果や教訓、アジアの共通課題について研究論文・出版物を発表する/論文・出版物の執筆に協力する	●実績なし
フィリピン		●チャプターを執筆（未発表）
バングラデシュ		●実績なし
日本		●実績なし
インド		●実績なし

2023 年度の③防災研究・調査促進では、各事業の効果的な実施に係る研究・調査の発表を目標としていました。フィリピンで実施している取り組みについて、学術書のチャプター（章）を執筆しました。当該書籍はまだ発行されていませんが、2024 年度に発表できる見込みですので、50%達成と見なします。2030 年プランでは研究論文・出版物を 5 発表することになっており、今年度の実績は同プランに対し達成率が 10%、2017 年度からの累計は 65%となりました。

⑦ 緊急支援・避難者支援

2030 プラン	2030 年までに SEEDS Asia は、災害発生時の緊急支援に向けた人材・寄付金のプールと災害前協定の締結を推進します。	
2023 年度	目標	実績
全体	<u>災害発生時の緊急支援に向けて寄付金のプールと災害前協定の締結を推進する</u>	<u>寄付金の積極的募集を展開した</u>
ミャンマー	●該当なし	●実績なし
フィリピン	●該当なし	●実績なし
バングラデシュ	●該当なし	●実績なし
日本	●緊急支援用資金源の確保（寄付金の積極的募集）	●寄付金の積極的募集を実施した（神戸市ふるさと納税制度への参画による寄付募集）
インド	●該当なし	●実績なし
緊急支援	●緊急支援発動基準に基づき、事業開始を判断	●ミャンマー国外避難民への緊急支援事業を開始

2023 年度計画の⑦**緊急支援・避難者支援**では、災害発生時の緊急支援に向けた寄付金のプールと災害前協定の締結推進を目標としていました。災害前協定の締結には至りませんでしたが、寄付サイト CANPAN のサービス終了に伴い、神戸市ふるさと納税の寄付対象団体として登録するなど、寄付金の積極的呼びかけをしました（次の災害に向けた取り組みなど、用途指定のない寄付金の目標額 1,000,000 円に対し、432,703 円で 43.2%を達成）。今後も災害発生時に円滑に出動ができるよう、備えを進めます。

なお、ミャンマー国外避難民への緊急支援として、3 月から移民として子ども達が通う学校において、多様なリスクに関する学びを推進し、子どもの保護につなぐ取り組みを複数の関係者と実施しています。

④ より安全な建設の推進

2030 プラン	2030 年までに SEEDS Asia は 10 件の質の高い学校・避難所の建設・改善・整備と推進に向けた提言をおこない、政策的貢献につなげます。	
2023 年度	目標	実績
全体	<u>安全な建設に向けた政策的提言を発表する</u>	<u>フィリピンにて、気候変動対応と環境に配慮した避難所の検討</u>
ミャンマー	●より安全且つ気候変動対応と環境に配慮した避難所の検討（体制の検討の上、案件化）	●該当なし
フィリピン		●フィリピンにて環境に配慮した避難所建設を検討
バングラデシュ		●実績なし
日本		●実績なし
インド		●実績なし

2023 年度の④より安全な建設の推進においては、事業地に関わらず、より安全且つ気候変動対応と環境に配慮した避難所の検討を目標としていました。実績として、フィリピンにおいて環境に配慮した避難所の建設の検討を開始し、専門家との意見交換や情報収集を進めました。ただし、案件化には詳細な事前調査が必要であることが明確になりました。検討を進めることができたため、今年度の累計達成率は 10%と見なします。2030 プランでは 10 件の建設・改善・整備と、政策的貢献のため提言としてまとめることを目標としており、現時点での達成度は 40%です。

⑤ 防災指導員育成

2030 プラン	2030 年までに SEEDS Asia は各国の状況に応じた防災計画（学校・地区・行政など）の担い手 1.5 千人を育成します。	
2023 年度	目標	実績
全体	<u>学校・地域・行政における防災の担い手 20 名を育成する</u>	<u>学校・地域・行政における防災の担い手 19.5 名を育成</u>
ミャンマー	●該当なし	●該当なし
フィリピン	●学校/地域防災の担い手 8 人	●フィリピン教育省の学校防災トレーナーの育成 3.5 人（育成中のため、7 人×50%）
バングラデシュ	●該当なし	●該当なし
日本	<ul style="list-style-type: none"> ●学校/地域防災の担い手の育成 12 人 ●中高生向け海外研修・課外活動プログラム開発の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●鳥羽小学校の教員研修受講者 13 人 ●長沼地区まちづくり委員会 兵庫県研修参加者 3 人 ●姫路商業高校とイナバング北中央高校との生徒交流事業実施
インド	●該当なし	●該当なし

2023 年度の⑤**防災指導員育成**では、20 名の育成を目標としていました。これに対し、フィリピンでは中部ビサヤ地方での学校防災推進を担う学校防災トレーナー7 名を選出しトレーニングを実施（育成継続中のため 50%として計上）、そして日本では長野市長沼地区まちづくり委員会のメンバー3 名と兵庫県における視察を実施しました。この 3 名のうち 1 名は 2024 年度まちづくり委員会の委員長に就任され、視察で得た学びを活かしてくださっています。また、鳥羽市立鳥羽小学校の教員 13 名は継続した教員研修への参画を通じ、学校計画の策定とレビューに関する知見を高めておられます。さらに、中高生向け海外研修・課外活動プログラムのパイロット事業として、兵庫県立姫路商業高校とフィリピン事業のモデル校・イナバング北中央高校とのオンライン交流を開始しました。計 19.5 名の担い手育成に協力し、2023 年度の目標に対する達成率は 97.5%となりました。2030 年プランでは 1,500 人の防災指導員を育成することを目指しており、この目標に対する今年度の達成率は 1.3%です。また、2019 年度からの累計達成率は 49.8%となりました。

⑥ 防災管理体制強化促進

2030 プラン	2030 年までに SEEDS Asia は学校防災計画あるいは地区防災計画/まちづくり計画など、30 件に計画策定の協力をおこないます。	
2023 年度	目標	実績
全体	<u>学校防災計画・地区防災計画に協力する（2 か所）</u>	<u>達成せず（フィリピンにて学校防災計画作成の素地づくり）</u>
ミャンマー	●該当なし	●該当なし
フィリピン	●事例作成	●実績なし
バングラデシュ	●該当なし	●該当なし
日本	●事例作成	●実績なし
インド	●該当なし	●該当なし

2023 年度の⑥**防災管理体制強化促進**においては、「2 か所（日本とフィリピン）で学校防災計画・地区防災計画づくりに協力する」ことを目指していました。フィリピンにおいて、学校防災計画の作成につながる人材育成を進めましたが、直接の計画策定に協力する事例はできませんでした。2030 年プランでは学校防災計画・地区防災計画への協力を 30 件展開する目標となっており、今後は国内外で学校・地区・防災計画・復興まちづくり計画に取り組むことが目指されます。




⑧ コミュニティ防災促進

2030 プラン	2030 年までに SEEDS Asia は、今後 30 年以内に 70%以上の確率で甚大な被害が予測されている「未災地」での活動を 7 か所で実施し、備えの強化を推進します。	
2023 年度	目標	実績
全体	<u>災害による被害が予測されている未災地での活動を展開する</u>	<u>未災地での活動を展開した</u>
ミャンマー	●該当なし	●該当なし
フィリピン	●該当なし	●該当なし
バングラデシュ	●該当なし	●該当なし
日本	●鳥羽小学校等と地域の連携強化	●三重県鳥羽市の鳥羽小学校に対し研修実施
インド	●該当なし	●該当なし

2023 年度の⑧コミュニティ防災促進は、未災地でのコミュニティ防災活動展開を計画しており、三重県鳥羽市立鳥羽小学校にて活動を展開しました。2030 年プランでは「2030 年までに、今後 30 年以内に 70%以上の確率で甚大な被害が予測されている未災地での活動を 7 か所で実施すること」を目標として掲げており、2019 年度からの累計で 3 か所の実施（ミャンマー、バングラデシュ、鳥羽市）となり、達成度は 42.8%です。

また、1 月にオンラインイベント「第 3 回マイ・ホームタウン アジア子ども会合」を開催しました。今年度はミャンマーからタイの国境のまちに避難している児童が 2 名参加してくれました。インド、バングラデシュ、日本（南あわじ市立福良小学校、豊岡市立新田小学校、長野市立長沼小学校、鳥羽市立鳥羽小学校）、ミャンマー、フィリピンから 8 校が参加してくれました。イベントの様子は[こちら](#)。

成果物

発行者	タイトル	発行地	言語	表紙
冊子				
SEEDS Asia	復興リレー講座（現地視察版：兵庫県内） 視察ノート	オンライン	日・英	
SEEDS Asia	復興リレー講座（現地視察版：兵庫県内） 視察の実施記録・最終ワークショップ協議録	オンライン	日・英	
SEEDS Asia	第3回「マイ・ホームタウン アジア子ども会合」 報告書	オンライン	日・英	

講師派遣実績

日付	主催者	実施場所	イベントタイトル	講演タイトル：内容	派遣講師名	対象	参加人数
6/8	甲南女子大学	甲南女子大学	NPO/NGO 論	「災害に負けない人とまちをつくるために」	大津山光子（事務局長）	山村弘美先生ご担当科目受講 2-3 回生学生	29
6/22	奈良教育大学	奈良教育大学	ESD と防災	「災害に負けないひととまちをつくるために」	大津山光子（事務局長）	及川幸彦准教授ご担当科目受講者	60

7/3	日本大学 理工学部 建築学科	日本 大学	ユニバーサルデザ イン	「災害に負けない人とま ちをつくるために」	大津山光 子（事務 局長）	井本佐保 里准教授 ご担当科 目受講者	120
7/10	神戸学院 大学現代 社会学部 社会防災 学科	神戸 学院 大学 +オン デマン ド	社会防災特別 講義 IV	「災害に負けない人とま ちをつくるために」	大津山光 子（事務 局長）	江田英里 香准教授 ご担当科 目受講者	40
7/27	鳥羽市立 鳥羽小学 校	オンライ ン	教員研修会	「鳥羽小 カリキュラムマ ネジメントの充実のため に－問いを軸にして単 元を構想する鳥羽っこ 学習－」 「命をつなぐ学校 鳥羽 をつなぐ学校であるため に－経験学習理論を 災害マネジメントに活か す－」	岸田蘭子 （テクニ カルアド バイザ ー）、大 津山光子 （事務局 長）	鳥羽市立 鳥羽小学 校教員	13
8/12	神戸大学 大学院	オンライ ン	GSICS 開発運 営評価論 2023	「①被災の背景に向き 合うということ－NGO が 果たすべき開発への役 割とは－」 「Case Study : SEEDS Asia のミャン マー事業－サイクロン・ ナルギスからクーデターま で－」 「③2013 年台風ハイ エンを経たフィリピンの学 校防災のあゆみ」	大津山光 子（事務 局長）、 有馬沙紀 （海外・ 国内事業 統括）	桜井愛子 教授ご担 当科目集 中講義受 講者	12
9/21～ 23	公益社団 法人日本 ユネスコ協 会連盟	仙台・ 気仙 沼	2023 年度（第 10 回）減災教育研修		上田和孝 （アドバ イザ ー）、大	減災教育 研修参加 教員（及 川幸彦理	40

					津山光子 (事務局 長)	事がコー ディネー ター)	
11/17	奈良女子 高校	奈良 女子 高校	総合的な探求の 時間	「『ほんまに奈良は大 丈夫』なん？ Let's break through the biases!」	大津山光 子（事務 局長）	新宮済先 生ご担当 生徒	100
11/21	フィリピン 教育省	フィリ ピン・ネグ ロス東 部ダウ イン	Young leaders' capacity building on future governance	"Disaster Risk Reduction Education Activities"	菅谷奈々 (フィリ ピン事務 所代表)	教育省ネ グロス東 部地区事 務所職 員・学校 教員・生 徒会長	100
11/22	RIKA Institute	オンライ ン	Learning from Japan: DRR-National and Local Policy, Grass- Root Activities and Gender Perspectives	"Women in Recovery from a Disaster - Inaudible to Audible - "	大津山光 子（事務 局長）	RIKA 関 係者・修 士課程の 学生など (角地ス ベンドリ ニ理事が コーディ ネーター、 泉貴子 監事など がスピー カー)	50
12/11	フィリピン 教育省	フィリ ピン・セブ 州タリ サイ市	DepEd 23 DRRM Module Training	"International and National Legal Framework of DRRM"	Edwin Marquez (フィー ルドコー ディネー ター)	教育省タ リサイ市 地区事務 所職員	50
12/13	甲南大学 国際交流 センター	オンライ ン	第3回 Global Careers Development	"United Nations and Global Problems: The	有馬沙紀 (海外・	グローバ ルなキャ リア形 成に必	30

				Case of Environmental Issues	国内事業 統括)	要なスキル や行動に 感心ある 甲南大学 学生	
12/18	フィリピン 市民防衛 局第7地方 事務所	フィリピン・セブ 州ラプ ラプ市	第4四半期第 7地方災害リス ク軽減管理評議 会会合	“Disaster Risk Reduction Education”	Edwin Marquez (フィー ルドコー ディネー ター)	フィリピン 第7地方 災害リス ク軽減管理 評議会メ ンバー	30
12/25	一般財団 法人日本 国際協力 センター	JICA 関西	JICA 課題別研 修 コミュニティ防 災	“RE-DISCOVER THE COMMUNITY AND THE POWER OF CONNECTIVITY”	大津山光 子(事務 局長)	アルメニ ア、タジキ スタン、トリ ニダード・ト バゴ、トン ガ、ニウ エ、ブラジ ル、ベリー ズ、ボツワ ナ、ミクロ ネシア、モ ルディブの うち、1か 国が不参加 となり9名 が参加	9
1/15 (収録 日)	国連大学 (奈良教 育大学及 川幸彦准 教授)	オンライ ン(収録)	国連 SDGs 入 門-「行動の10 年」のためのサ ステナビリティ の学び	『「災害への対応とリスク 軽減(DRR)について 学ぶ」 海外編:アジア地域の 防災・減災教育の取組 〜ミャンマーの気象系 災害を中心に〜」	大津山光 子(事務 局長)	及川幸彦 准教授担 当科目受 講者	60
2/2	公益社団 法人日本	仙台・ 気仙沼	2023年度(第10回)減災教育研修 報告会		上田和孝 (アドバ)	減災教育 研修プロ グラム参加	40

	ユネスコ協会連盟				イザ ー)、大 津山光子 (事務局 長)	教員 (及 川幸彦理 事がコー ディネー ター)	
2/3	公益社団 法人日本 ユネスコ協 会連盟	東京 都	2023 年度 (第 10 回) 減災教育フォー ラム		上田和孝 (アドバ イザ ー)、大 津山光子 (事務局 長)	減災教育 研修プロ ラム参加 教員と一 般参加者 (及川幸 彦理事が コーディ ネーター)	170
2/5	フィリピン 教育省	フィリ ピン・セ ブ州セブ 市	Regional and Division DRRM Team Capacity Building	“Legal Framework of DRRM in the Philippines” “Comprehensive School Safety Framework”	Edwin Marquez (フィー ルドコー ディネー ター)、 Lex Novilla (アシス タントコ ーディネ ーター)	教育省第 7 地方事 務所・地 区事務所 職員	150
2/8	鳥羽市立 鳥羽小学 校	鳥羽 小学 校	教員研修会	「鳥羽小 カリキュラムマ ネジメントの充実のため に」 「My Hometown ア ジア子ども会合 アンケ ート結果概要について」	岸田蘭子 (テクニ カルアド バイザ ー)、大 津山光子	鳥羽市立 鳥羽小学 校教員	13

					(事務局 長)		
--	--	--	--	--	------------	--	--

委員会等

2023 年度	神戸市教職員組合 神戸教育文化研究所	大津山光子（事務局長）
---------	--------------------	-------------

組織強化

SEEDS Asia 2030 プランの改訂版施行

コロナ禍における移動制限と急速なデジタル社会への移行、また政情不安によって発展的な新規事業の形成が困難となるなど、外部環境は急激に変化しました。2022 年理事会にて SEEDS Asia 2030 年計画の改訂が必要であることが確認され、2023 年 1 月 28 日には理事・アドバイザー・事務局職員が集合し、改訂版策定に向けた中間レビュー会合を神戸本部にて開催しました。2023 年度の理事会を経て微修正・追加の記載をおこない、2023 年度は SEEDS Asia 2030 年計画改訂版の施行に至りました。



↑ SEEDS Asia 2030 年計画改訂版のページへ移動

2030 プラン	<ul style="list-style-type: none"> ●各事業の運営を支える本部の組織体制の強化とともに、現地事務所での管理業務（庶務、会計、報告等）の効率化を図るシステムづくりにより、戦略的な組織運営を目指します。 ●事業の質の高さと安定を保つため、日本国内の政府系の助成金だけでなく、民間や海外の助成金、事業収入、寄付収入の増加により、財源の多様化を目指します。 	
	目標	実績
認定法人化	●2020 年に取得済	●継続中
情報提供・コンサルティングサービス事業や、教材や出版物といった情報商材の販売等	●全事業地において、SEEDS Asia の取り組みや理事・専門家による防災講座を提供（オンライン・有償・英語・シリーズ化）	●旧オンライン寄付サービスの停止により、一旦保留中（本紙 p.5 ②ツールの開発 箇所参照）。
組織運営に関する知見を	●規程の充実	●行動規範の改訂、各種規程の公開、環境及び

共有・システム化（規程含む）	●オンラインツールの活用	社会的配慮規程、電子取引に関する規程、個人情報保護方針のホームページへの掲示、給与規程の改訂 ●オンラインツールのさらなる活用、リモートワークの一部継続など働き方の多様化
人員体制強化（テクニカルアドバイザー・外部人材起用）・人材育成（研修参加）	●テクニカルアドバイザーの起用 ●研修への参加（原則無料の機会をできるだけ活用）	●テクニカルアドバイザーへの依頼 2 回 ●GRANT への登録とプロボノ活用 ●研修：JPF/JANIC 主催サイバーセキュリティ研修（2 名）、JPF/JANIC 主催ジェンダー研修（1 名）
財源の多様化	●新規ファンド	●1 件
ホームページの改訂	●新ホームページの作成	●内外からの旧ホームページの課題抽出 ●ワイヤーフレーム作成（継続中） ●イラストデザインの作成（継続中）
企業・大学との連携	●常葉大学山根教授との連携	●常葉大学山根教授との連携（フィリピン）
SNS の効果的な活用によるフォロワー等の増加	●Facebook フォロワー数 1960→2000 目標 ●Twitter フォロワー数 76→100 目標 ●Instagram 開設	●Facebook フォロワー数:2,056（目標達成） ●Twitter フォロワー数:105（目標達成） ●Instagram 開設（開設の目標は達成したが、未投稿）

広報タスクフォース

2019 年度に理事・事務局・団体アドバイザーの有志が立ち上がり、「広報タスクフォース」として、外部支援を得ながら団体のスローガン「防災で未来をつくる」を設定しました。また、上記の 2030 年計画の改訂では、広報活動の充実が組織強化（人材の確保・資金の確保）における喫緊の課題として改めて確認されました。

そこで、2023 年 7 月には広報タスクフォース会議を開催し、「団体のホームページを考える 🌱」というワークショップを開催し、忌憚のない話し合いをおこないました。参加メンバーからは、旧ホームページで「真面目さ」や防災を主軸とした「日本を含むアジアでの実績」などが読み取れる一方で、「推し感がない」、「欲しい情報になかなかアクセスできない」、「報告が多いので共感/協働意欲を生み出せない」、「表現が堅い・難しいので、広い共感を生み出せない」、「報告だけでなく、社会課題の提示を分かりやすく示す必要がある」など、その構成・内容・表現において、内部の視点から見ても改善の余地が大いにあることが把握されました。さらに、GRANT という社会参加プラットフォームを用い、複数のプロボノの方にホームページ改善に関するご意見をいただき、客観的視点からの改善点や技術的なアドバイス、今後のホームページ改訂にあたって考えるべきポイントや必要なプロセスのご指導をそれぞれいただきました。このように、内外の意見を踏まえ、気候変動や防災という難しいテーマを「難しい」や「怖い」というだけの扱いにせず、子どもたちや若者を含めた広い市民社会に自分事として「知りたい」と思っていたくこと、そして「自分にできることは何か」を考え、寄付・支援・参加といった行動へと「つながる場・機会」の提供を促進するホームページを作成していく方針です。

なお、GRANT によるプロボノ制度活用の実績が認められ、GRANT アワード最多活用賞が授与されました。



2023年度 第1回
SEEDS Asia
広報タスクフォース会合
(理事・顧問)

テーマ：ホームページの改訂
に向けた意見交換と分析

角崎理事






及川理事

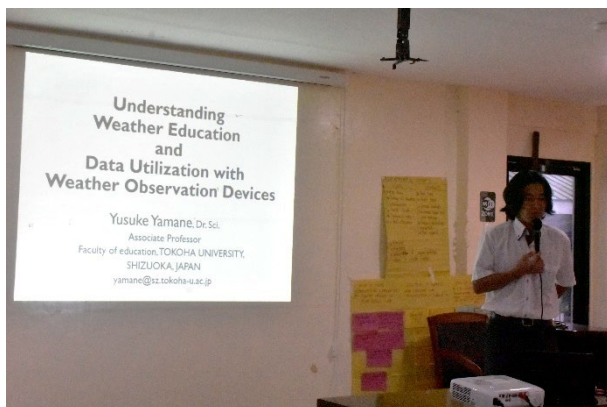


2023年7月12日 SEEDS Asia 本部事務局（於：神戸）

国別・事業別報告

1) フィリピン 中部ビサヤ地方における学校防災強化・推進事業

期間	2022 年 11 月～2025 年 10 月
パートナー	フィリピン国教育省
資金提供	JICA 草の根（地域活性化特別枠）
受益対象者	フィリピン国教育省職員(240)、教育省第 7 地方事務所及び管轄下の地区事務所職員（58） 計 298 人
SEEDS Asia 2030	防災/環境教育・啓発、防災指導員育成、防災管理体制強化・促進、コミュニティ防災の推進
SDGs との関連	    



気象学習ワークショップの開催



教育省第 7 地方事務所主催行事内での
災害伝承ワークショップの様子

< 背景・課題 >

2013 年 11 月に発生した台風ハイエン（ヨランダ）の被災地であるセブ州を含む中部ビサヤ地方（教育省第 7 地方事務所管轄）では地震や台風、火山噴火や洪水などの災害リスクが高く、学校での対策が重要である一方、地区や学校によって防災への理解度や実践度にばらつきがあります。そのため、教育省第 7 地方のすべての学校で命が守れる取り組みを進める＝学校防災が実現・普及されるためには、教員が包括的な学校防災の知識を習得し実践するための研修、その研修を行う指導員、そして、地方全体レベルの推進計画が必要です。






そうして学校防災を推進する上で、過去の災害から学び現在の気象リスクを理解することは欠かせません。フィリピンでは過去の悲しい出来事について話すことを避ける傾向にありますが、台風ヨランダを契機に、教訓を未来に伝える重要性が認識され始めています。加えて、フィリピンは災害リスクの中でも、台風は世界で 2 番目、洪水は 29 番目にリスクが高いとされています（[アジア開発銀行、2021 年](#)）。これらは、気候変動の影響を大きく受ける災害であるため、今後より一層、気象学習や気象情報を活用して、気候災害から身を守るための取り組みが大切になります。これらの背景から、先行事業（2014 年～2017 年、2017 年～2021 年）で取り組んだ防災教育と防災

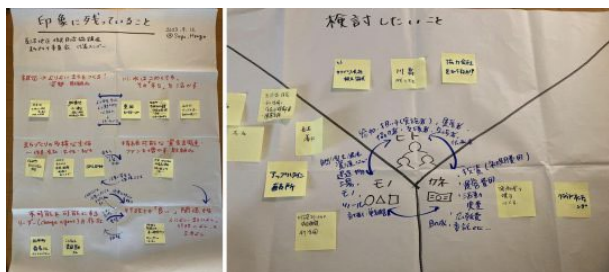
管理を教員研修用にプログラム化し、さらに災害の語り継ぎや気候変動適応の要素を取り入れる必要があります。そしてそうしたプログラムの普及を教育省第 7 地方事務所管轄下で目指すための事業を、2022 年 11 月から JICA 草の根技術協力事業にて開始しました。

< 2023 年度の実績 >

2022 年度に募集を開始した学校防災推進トレーナー（防災指導員）の選考を 2023 年 4～6 月におこない、セブ・ボホール・ネグロス東部・シキホールのそれぞれエリアからトレーナーを選出し、9 月より育成を開始しました。気象リスクの理解を高めるための気象学習に関する啓発として、同年 8 月に常葉大学山根悠介准教授（2024 年 4 月から教授）を派遣し、タリサイ市との共催で気象学習ワークショップを開催しました。災害語り継ぎに関しては、10～11 月にかけて、教育省主催行事や、昨年度結成の教育省第 7 地方事務所管轄区域の学校防災推進を担うコアメンバーで構成される「学校防災タスクフォース」や学校防災推進トレーナーとの協議にて、兵庫県をはじめとする日本やアジア各地の災害伝承の事例紹介やビサヤ流語り継ぎに関するワークショップをおこないました。学校防災研修の開発にあたり、ニーズ調査を 9 月に実行し、同月から、研修内容に関する協議を学校防災タスクフォース及び学校防災推進トレーナーと開始しました。研修の開発過程として、第 7 地方の「モデル校」1 校に試験的に研修を導入をすることとなっており、インタビューや学校訪問を通してモデル校の選考をおこない、10 月にボホール州イナバンガ北中央校をモデル校とすることに決定しました。この研修の試験的導入は 2024 年度におこなわれます。学校防災研修の地方レベルの推進計画についても、2 月から本格的な協議を開始し、研修の目標設定（研修を最終的に受ける学校数・必要な防災指導員の人数）をしました。

2) 日本 With コロナ時代の復興まちづくり協力事業 Phase-II

期間	2022 年 6 月～2023 年 6 月 (JPF) 2022 年 8 月～2023 年 6 月 (長野市)
パートナー	長沼地区復興対策企画委員会、長沼地区住民自治協議会まちづくり委員会、長野市
資金提供	ジャパン・プラットフォーム (JPF)、長野市
受益対象者	長野県長野市長沼地区住民
SEEDS Asia 2030	防災指導員育成、緊急支援・被災者支援、コミュニティ防災の促進
SDGs との関連	    



学びのまとめワークショップの成果物



関西視察研修の様子（佐用町にて）

< 背景・課題 >

2019 年 10 月に発生した台風 19 号により甚大な被害を受けた長野県長野市長沼地区は、災害後の復旧期から恒久期の復興・防災を視野に入れたまちづくりに移行するため、2022 年度に住民自治協議会まちづくり委員会を設立しました。SEEDS Asia は 2019 年被災後の初動調査を機として、休眠預金活用事業・ジャパン・プラットフォームの令和元年台風被災者支援（台風 15 号、台風 19 号）の助成を受け同地区の支援を開始しました。2022 年度からは、まちづくり委員会にて復興まちづくりの事業化・実施・モニタリング体制の確立を目指す支援活動を開始した他、長野市からの委託で、同地区にて被災前に策定されていたまちづくり計画「ホームタウン・ながめ」を振り返り、被災後の状況に合わせた内容に改訂する支援も並行して実施しました。

< 2023 年度の実績 >

2023 年 9 月 10 日～12 日、長沼地区まちづくり委員会のメンバーを対象とした兵庫県内 3 地区（豊岡市・丹波市・佐用町）への視察研修をおこないました。いずれも水害の歴史があり、それぞれに住民主体のまちづくりが展開されています。それぞれの地域の方々が復興期において、どのようにやりたいこと(やるべきこと)を実現しているのか、その工夫や手法を実際に見て聞いて交流していただきました。

豊岡市では「北但馬地震と水害後のまちづくりー復興建築群・水資源の活用事例」（豊岡まち塾手配による座学とまち案内）、「災害の記録と記憶の継承の拠点」（砂防の父 赤木正雄展示館見学）、丹波市では「平成

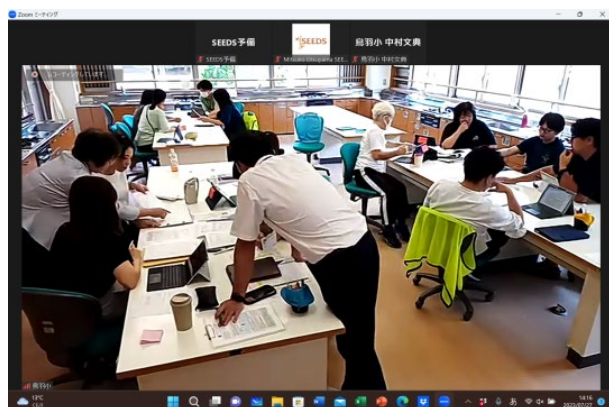
26 年 8 月豪雨災害後の美味しい・楽しいまちづくり実践事例、共同農園・森づくり事例」（ぼんぼ好、こんちゃん農園との交流）、佐用町では「平成 21 年台風 9 号災害後の歴史資源と自然と自然資源を活かした景観まちづくり実践事例」（地域住民組織、佐用町観光協会、佐用町まちづくり会社（株式会社かのね）、元佐用町役場職員の方々との交流）について視察訪問をしました。最終日には学びのまとめワークショップを開催し、研修からの学びと今後の長沼地区における実践について意見交換をしました。また、本研修に先立ち、復興リレー講座の一環として新潟大学工学部准教授/ファンドレイジング協会認定ファンドレイザーの上田和孝先生より、「復興まちづくりのファンドレイジングーやりたいことを実現するためにー」も開催し、今後の長沼地区におけるまちづくりを実現するための手法を検討しました。

上述まちづくり視察に関連して作成した資料は下記からご覧いただけます。

復興リレー講座 現地視察版 兵庫県内 復興まちづくり視察ノート	復興リレー講座 現地視察版 兵庫県内 復興まちづくり最終ワークショップ報告書
 <p>復興リレー講座 現地視察版 兵庫県内 復興まちづくり 視察ノート</p> <p>主催：認定特定非営利活動法人 SEEDS Asia</p> 	 

3) 日本 鳥羽市立鳥羽小学校研修への協力

期間	2023 年 4 月～2024 年 3 月
パートナー	三重県鳥羽市立鳥羽小学校
資金提供	三重県鳥羽市立鳥羽小学校
受益対象者	鳥羽小学校教員と児童
SEEDS Asia 2030	コミュニティ防災
SDGs との関連	



8 月の教員研修の様子



2 月の教員研修の様子

< 背景・課題 >

三重県沿岸部に位置する鳥羽市立鳥羽小学校では、南海トラフ地震による津波のリスクと、人口減少の加速化という大きな地域課題を前に、「命をつなぐ、鳥羽をつなぐ」を掲げ、ESD（持続可能な開発のための教育）をベースとした防災教育を推進しています。SEEDS Asia は、及川幸彦理事と「減災教育プログラム」を通じて同小学校の先生方とつながり、防災教育推進に関する教員研修などへの協力をしています。

< 2023 年度の実績 >

鳥羽小学校は、「鳥羽っ子学習 – 命をつなぐ子 鳥羽をつなぐ子 –」をテーマに ESD カリキュラムマネジメントを取り入れ、教科横断型・全校（whole-school）で展開しています。その推進への協力として、2023 年度は SEEDS Asia テクニカルアドバイザーの岸田蘭子滋賀大学特任教授と、事務局長の大津山光子が教員研修にて講義や助言を提供しました。

さらに、6 月初旬には鳥羽市を襲った豪雨に関し同校の対応を検証会がオンラインでおこなわれました。学校長と教頭、及川幸彦理事と大津山光子事務局長が参加し、「命を守る」という対応指針の再確認と、離島を含む広い校区を持つ鳥羽小学校にとっては子どもの個別事情を踏まえることや地域の協力が道路の状況などの情報収集において欠かせないことも確認されました。この結果を踏まえ、大津山光子が教員研修の際に「命をつなぐ学校 鳥羽をつなぐ学校であるために – 経験学習理論を災害マネジメントに活かす –」をテーマとした講話をおこない検証結果

を教員の方々に改めて共有しました。

4) 本部（複数国） マイ・ホームタウン アジア子ども会合

期間 2024 年 1 月 17 日

パートナー 豊岡市立新田小学校、南あわじ市立福良小学校、長野市立長沼小学校、鳥羽市立鳥羽小学校、モデルアカデミー（バングラデシュ・ダッカ）、イナバング北中央校初等部、聖アトゥラナンド修道校（インド・バラナシ）、子ども育成校（CDC）（タイ・メーソット）

資金提供 なし

受益対象者 学校教員（23）、児童生徒（143）
計 156 人

SEEDS Asia 2030 防災/環境教育・啓発

SDGs との関連



集合写真

< 背景・課題 >

2021 年度に、団体設立 15 周年を記念し「マイ・ホームタウン アジア子ども会合」を開催しました。このオンライン会合には、SEEDS Asia がこれまで、アジア各地の多くの学校とともに防災やまちづくりの活動を展開するなどによって出会った学校の児童生徒が参加し、自分のまちの自慢や防災の取り組みなどについて意見交換・交流をします。持続可能な社会を目指す団体である SEEDS Asia にとって、アジアの異なる場所にいる子ども達同士が交流する場を設け、防災への取り組みを共有することで地球市民となる仲間をつつたりふるさと愛を醸成したりすることは非常に大切なことです。2020 年度から小学校での英語教育が必修化となった背景もあり、一昨年度の参加校や参加児童の保護者から好評を得て、2022 年度に第 2 回、2023 年度には 1 月 17 日（阪神・淡路大震災から 29 年を迎えた日）に第 3 回を開催する運びとなりました。

< 2023 年度の実績 >

2023 年度は日本（豊岡市立新田小学校、南あわじ市立福良小学校、長野市立長沼小学校、鳥羽市立鳥羽小学校）とバングラデシュ（ダッカ市モデルアカデミー）、フィリピン（ボホール州イナバング北中央校初等部）、インド（バラナシ市聖アトゥラナンド修道校）、タイ（ミャンマーからの避難民が集まるメーソットの子ども育成校（CDC）の 5 地域 8 校から、総勢 156 人の児童生徒と教員が集まりました。まちの紹介や防災の取り組みが子どもたちから共有され、英語でコミュニケーションをする機会となりました。また、今回は政情不安や軍による弾圧・攻

撃によりタイに避難しているミャンマー出身の児童も参加し、自然災害だけでなく人災によって避難を余儀なくされた中、勉強に励む子どもとの交流が実現しました。質疑応答では昨年度と同じく、食べ物の話がとても盛り上がり、また、制服にも色々な特徴があることがわかりました。今後は参加者・参加校をどんどん増やし、学年別に展開していきたいと考えています。詳しい報告は[こちら](#)から。

**【認定】 特定非営利活動法人 SEEDS Asia
事務局**

〒658-0072 兵庫県神戸市東灘区岡本 1-7-7-307

Tel.: 078-766-9412

Fax.: 078-766-9413

Email: rep@seedsasia.org

Website: <https://www.seedsasia.org>

Facebook: <https://www.facebook.com/SEEDSASIA/>